

## 資料2 世界経済フォーラム 『世界競争力レポート』について（概要）

1. 世界競争力レポートは、世界経済フォーラム（WEF）の活動の一環として、各種の統計データと独自のアンケート調査に基づき、各国の競争力を調査し、96年以降作成しているもの。このレポートは、技術のみの競争力ではなく、技術を含めた経済や国のシステム全体の競争力を、統計データとアンケート調査の結果を用いて評価したものになっている。年1回発行されており、2001-2002年版は、2002年1月に出されている。
2. 「経済での女性の参加」の項目は、各国の経営幹部層を対象としたアンケート調査の結果であり、経済分野への女性の参画が「限定されており、たいがいあまり重要でない職種についている」を1点、「男性の参画と同程度である」を7点とし、回答者が主観的に点数を付ける方向で行われている。

日本においては、（社）経済同友会の協力の下調査がなされ、73企業から回答があった。結果は、平均3.6点であり、全75か国中69位であった。

注：世界経済フォーラム（WEF：World Economic Forum）とは、ジュネーブに本拠を置く非営利の財団で、欧米を中心に1000の企業や団体が加盟。世界経済の発展と協調の促進、専門知識の共有の促進等を目的としており、ダボス会議の主催者として有名。

<参考>世界経済フォーラムによる主要国の競争力の評価（75か国中の順位）（抜粋）

	日本	米国	ドイツ	イギリス	フランス
1. 競争力の成長性	21	2	12	17	20
（1）技術	5	1	10	15	17
（2）公的制度	19	12	9	17	20
（3）マクロ経済環境	18	7	12	19	22
2. 現在の競争力	15	2	7	4	12
（1）企業運営と戦略の洗練度	8	1	7	4	10
（2）経営環境の質	18	2	8	4	12
3. その他の指標					
頭脳流出の抑制	4	1	6	19	8
消費税率	4	1	37	46	56
経済分野への女性の参画	<u>69</u>	<u>11</u>	<u>46</u>	<u>15</u>	<u>10</u>